



三 愛 学 園

児童養護施設さんあい

一時保護施設

三愛子ひつじ寮

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax 048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jpURL san-ai-jidouyugo.org

「アニマルセラピー」

社会福祉法人三愛学園理事長 高瀬一使徒



さんあいではペットを飼育して、子どもたちにアニマルセラピーを行っています。現在、犬 2 匹、ウサギ3羽、ハムスター1匹、小桜インコ7羽がいます。動物が好きな子どもたちは、アニマルクラブに入り、これらの動物と触れ合うことができます。14名のクラブの子どもたちは 3 つの班に分かれて、当番で毎日学校から帰ったら動物のお世話をします。クラブには入らない動物の苦手な子どもも、触れ合う機会はあります。

さんあいのアニマルセラピーの目的は3つあります。一つ目は、動物と触れ合うことで子どもたちの心をいやすこと。2つ目は、動物をお世話することで、自分が誰かの役に立っているという有用感を高めること。そして3つ目は、将来自分でペットを飼うときにお世話をした経験が役に立つことです。

アニマルセラピーを開始して8年になりますが、最近、大切なことに気づかされました。それは、子どもの精神的な安定に必要な人とのスキンシップを動物と触れ合うことが補完しているということです。スキンシップの効能をネットで検索したところ、以下のような答えが返ってきました。

「スキンシップは、安心感の提供、ストレス軽減、孤独感の解消、そして精神的な安定に繋がる効果があります。手を握る、背中をさするなどのタッチケアを通じて、癒しや幸福感をもたらす『オキシトシン』というホルモンが分泌されることで、心身の不調が改善され、自己肯定感が高まることが期待できます。またスキンシップを通して子どもと同じように親もリラックス効果が得られます」

この答えに沿って考えるなら、子育てにはスキンシップは有効であり奨励されるべきものです。特に乳幼児期には絶対に必要であることは言うまでもなく、子どもの成長段階に沿った適切なスキンシップは、精神的に肯定的な変化をもたらすと考えられます。日本人は文化的背景から、日常生活の中でスキンシップをとることが少ないです。さらさんあいのような施設の生活の中では、スキンシップはできる限りしないという方針です。職員と子ども、子ども同士でも「不必要に近づき過ぎない」よう厳しく指導しています。それは性的な事故やトラブルを防ぐためです。ですので、さんあいではケアが必要な小さな子どもたち以外は、スキンシップをとることは殆どありません。しかし対象が動物であれば、子どもたちはハグしたり抱っこしたりできます。ですからアニマルセラピーで動物と触れ合うことが、傷ついた子どもたちのケアに有効なスキンシップを補完しているのではないかと考えています。

アニマルクラブでは、新年度が始まると年間の活動計画を子どもたちと一緒に考えます。その中で一番人気のイベントは、犬と一緒に泊りすることです。学校が休みの時に、班に分かれて2匹の犬と交流ホールに布団を敷いて一泊するのです。子どもたちは撫でたり、抱っこしたり、自分の布団の中に犬たちを入れて一夜を過ごします。犬も慣れているので、嫌がらず子どもたちの相手をしてくれます。これらの光景を見ていると本当に子どもたちはスキンシップを求めていることがよくわかります。

施設として、より家庭的な養育を目指しながら、スキンシップは“不可”とせざるを得ない状況に、整理できない思いもあります。しかし子どもの利益を最優先に考えた時に、これからも目的意識を見失うことなくアニマルセラピーを継続していきたいと考えています。



子どもの声を聴く

児童養護施設さんあい 施設長 平本 実

「今まで、大人が自分の話をしっかり聞いてくれたことはなかった。ここ（さんあい）に来て、初めて（自分の訴えを）聞いてもらえて嬉しかった。」

さんあいでは、子どもたちが生活する各ユニットに「ロバの耳ボックス」と呼ばれる意見箱が設置されています。部屋の担当職員に話にくい、あるいは話したくないことは、施設の苦情受付担当者（現在は事務長）に直接話すか、この意見箱に投書を行うことができます。投書は、部屋の担当職員ではなく、苦情受付担当者のみが読み、必要と判断すれば中立的立場にある施設外の第三者委員に介入をしてもらうという流れです。冒頭の言葉は、一時保護所に設置したロバの耳ボックスに投書をした児童に対して、内容の検討を行い、その結果を伝えた際に出た言葉でした。

国連子どもの権利条約では、「声を聴かれる」ことは基本的権利のひとつとされており、あわせて「子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。」ⁱとしています。日本でも 2016 年の児童福祉法改正以降、子どもの権利、なかでも「子どもの声を聴く」ことの重要性が強調されるようになりました。

さんあいでは日常生活の中での対話に加え、子ども会議などを通して集約された意見を大人が聴く機会を設けたり、今年度受けている第三者評価のように外部者によるアンケートや聞き取りを実施したりしています。ただし、「声を聴く」ことは、子どもにとって単に「言えた」、大人にとって単に「場を設けた」で終わる、一過性のものであってはいけません。

児童精神科医の山口有紗さんは、「意見を聴くことは一方向のプロセスではない」「意見を聴くプロセスは子どもと大人が相互の環境や背景をよく理解し（あるいは『子ども』『大人』という分類を外して、人として自分や相手を理解し合い）、対話・会話を継続していく過程そのもの」ⁱⁱだと語ります。そこで重要となるのが、聴いた後の大人からのフィードバックです。しかしその内容が子どもの期待に沿わない場合、受け入れるのが難しいこともあります。そのため、大人の伝え方や説明方法は常に工夫が求められます。さらに、安全で安心できる関係性は一度の体験では築けません。繰り返しポジティブな経験を重ねることで自律性が育ち、将来、逆境体験をした場合にそれを乗り越える力＝レジリエンスを養う基盤となります。

これからも子どもたちとの継続的なかわりの中で、言葉にならない思いも含め、その声をていねいに聴き続けていきたいと思います。



子どもたちへの第三者委員の紹介

ⁱ 子どもの権利条約 日本ユニセフ協会抄訳 <https://www.unicef.or.jp/crc/childfriendly-text/>

ⁱⁱ 山口有紗『子どものウェルビーイングとひびき合う』明石書店、2024 年、p.201

児童福祉施設親善球技大会

埼玉県内の児童養護施設対抗で行う球技大会が、今年も鴻巣市で8月6日に開催されました。種目は“ドッチビー”。ルールはドッジボールと同じですが、ボールの代わりにソフトタイプのフライングディスクを使用します。

大会に向けて、他施設との練習試合やチーム内での練習を重ね本番に臨んだ小学生チーム。接戦が続いたプール戦では、最後まで諦めることなく一生懸命頑張りましたが、惜しくも勝利を掴めませんでした。

試合ギリギリまで自分達で考えた練習メニューに取り組み本番に臨んだ中高生。ダブルエースを中心に、そのエースをサポートするべく他の児童が結束して戦いました。その甲斐あってプール戦では圧勝したものの、トーナメント戦では図らずも初戦敗退。しかし、出場選手のみならず、控えや小学生達も含めて全員が同じ「優勝」を目指して奮闘する姿は、職員はもとより多くの人の感動を呼びました。中高生、小学生ともメダルは逃したものの、その姿が評価され閉会式では「チームワーク賞」が授与されました。最後まで頑張った子ども達に大きな拍手を送りたいです。



アニマルクラブ



動物指導センター訪問
～獣医師の方の講話～
～トリミング見学～



わんちゃんとハイキング



生き物の飼育勉強会



桜の下をゆっくりお散歩



わんちゃんとお泊り会
大人気のイベント♪

あたらしい仲間たち



小桜インコ



ジャンガリアンハムスター



ペットショップ



ネザーランドドワーフ



夏の思い出

特別部屋外出

夏休みのお楽しみ、ホームのみなさんでお泊り外出！
ではありましたが・・・年々厳しくなる暑さは屋外での活動を制限するほどのです。そこで、今年の夏のお泊り外出は、3つのホームのみが実施。残り半分のホームは時期を秋にずらして秋に実施予定です。

もみの木

那須方面に旅行に行きました。1日目は万人プールで大はしゃぎの子ども達。夜はコテージでBBQをしたところ虫が寄ってきて大騒ぎ、なんてこともありました。2日目は那須どうぶつ王国でたくさんの動物と触れ合いました。怖がりながらもヒツジに餌をあげる子どもたちの姿は微笑ましかったです。

最後の締めは食べ放題バイキングでの夕食。好きな物を好きなだけ食べられて、子どもたちも職員もお腹いっぱい、幸せいっぱいでした！！



ねむの木

山梨旅行に行き自然を満喫してきました！桃の食べ放題では、桃を丸かじり！“もう入らない”…とみんな首を横に振るほど桃を堪能しました！

夜はコテージでBBQをしたり、枕投げをしたりと楽しい夜になりました。ほったらかし温泉では、みんなで裸の付き合いをしながら「また旅行行こうね」と思い出を語りました。

富士山を見た子どもたちは「え、日本一高いの!?」と目を丸くしており、子どもたちの心に少しでも感動や思い出が残ってくれば嬉しいです♡



かしの木

8月18・19日、神奈川県へ出かけました！1日目は箱根のスパリゾートへ行き、温泉やプールに入りました。いろいろな種類がある温泉では、子どもも職員も大はしゃぎ！

プールではヘトヘトになるまでたくさん泳ぎました。

その後は海近くのコテージへ移動し、夜は皆でお寿司を食べたり、テレビを観て夜更かし。

2日目は江の島水族館へ行き、水に濡れないかヒヤヒヤしながらイルカショーを観覧。夏を満喫できました。



深谷祭り



深谷市で毎年、夏に開催される深谷祭り。今年もさんあいの子どもたちが神輿を担いで参加しました。猛暑になりやすい深谷の土地柄から、沿道の観客が神輿や担ぎ手に水をかけて清めるのが伝統となっています。そこで、子ども達の神輿にも大量の水がかけられました。夕方でもまだ日差しは強い中、かけられる水に驚くよりも、むしろ心地よいと感じる体験でした。

くしびき夏まつり

深谷祭りに続いて、さんあいの地元、櫛挽地区で行われるくしびき夏祭りに参加しました。子ども達に大人気の深谷市のマスコットキャラクター・ふっかちゃんも登場し、大喜びの子ども達。日が陰ってから参加をしたので、出店を回ったり、盆踊りにも加わったりでき、お祭り気分をたっぷり味わいました。



ブラジル体験会



秩父の教会で宣教師として働くブラジル人のご一家が、ワクノビクラブの子どもたちを対象にブラジルのお菓子作り体験とブラジルの文化紹介をしにきてくださいました。「ブラジルのお菓子、ベイジーニョを作ります。」と話しながら、材料のココナッツミルクと砂糖、砕いた乾燥ココナッツに飾り付けのクローブを紹介してくださり、続いて一緒に混ぜ合わせて作る作業を体験しました。お菓子が固まるのを待つ間にブラジルの地理や歴史、文化などについて興味深いお話を聞かせていただきました。

ガーデンパーティー



例年、夏休みに入るタイミングで行ってきたさんあいのガーデンパーティーですが、昨年、熱中症アラートが出るか否かで開催が危ぶまれる事態となりました。その反省を踏まえ、今年は夏休みが終わり、涼しくなり始めるタイミングで実施しました。そうめんに代えて、つかみにくいこんにゃくや枝豆をどれだけつかめるかを競ったり、金魚に代えてスーパーボールをすくったりして、ホームごとに得点を争いました。結果はねむの木さんの優勝。豪華お菓子セットをゲットして誇らしげでした！

ねむの木

蝶々を一生懸命追いかけている子や、アイドルになりきって踊っている子、縁側でのんびりおやつを食べている子など皆、個性的です。「〇〇ちゃんらしいね」との子ども同士の会話は、お互いの違いを認め合っていることが理解でき、嬉しく思わず微笑んでしまいます。夏休みは外出しない時も庭でプールや流しそうめんをしたり、室内で映画を観ながらお菓子パーティーをしたりと楽しむことができ、思い出づくりができました！8月末、登校日が近づき「まだ夏休みがいいのに」と涙を流す小学生もいる程、楽しく思い出に残る夏休みとなりました。

(山本)

伝達講習

職員が広く医療への関心や知識を深めていただきたいという思いから、看護師が外部講習会などで得た情報を元に2024年7月より「伝達講習」を不定期で行っています。内容はパワーポイントを使って15分程度の短い講義と演習です。シラミ、食中毒、とびひ、ノロ、アレルギー、おたふくなどの身近なものから、アフターピル（中絶薬）の最新情報などカバーし、領域は多岐にわたります。子ども達の生活に密着した医療、いざというときに職員が知っていて助かったと思えるよう、情報や技術をおもしろく、かつ分かりやすく伝えようと努めています。

(青木看護師)

子ひつじ寮

現在、常勤・パートを含め9名の職員が勤務しています。職員が多すぎるのでは？と思うかもしれませんが、この小さなコミュニティが意外にいい効果を生み出しています。年齢も20～50代までと幅広く、子育て経験のある方もいて落ち着いた生活環境です。自立への道を自分のペースで考え、試行錯誤して進み、職員が静かに見守り応援する。そういう自立援助ホームの支援が大好きで、私にとっては大切なセカンドハウスです！

(佐藤)

いちょうの広場



女の子オリーブの子どもたちの間では着せ替え人形やペーパークラフトが流行っています。着せ替え人形は繰り返し遊べるよう子ども自ら工夫して制作しており、お互いに「それいいじゃん！」「可愛いね！」と会話も弾み、ほほえましいです。ペーパークラフトは、年齢が高くなるにつれて難しい物に挑戦し、苦戦しながらも完成するとにっこり。素敵な笑顔がたくさん見られました。

夏休み期間中には、熱中症の心配のない屋内プール施設に行き楽しむことができました。

(滋野)

自活訓練

退所を控えた高校3年生が2週間の自活訓練を行いました。施設内の部屋ではなく、街中の民間アパートで行なったため、実際の一人暮らし同様、全てを自分でやらなければなりません。家事、特に料理は決められた予算の中で買い物をしながら3食分、食事を用意します。途中で様子をうかがうと、こちらの不安とは裏腹に2週間の一人暮らし生活を楽しんでいる姿がありました。来年3月の退所へ向け、少し自信が付いたのではないかと思います。

(岩崎)

夏みかん

寄居町の風布の沢で里親さんとさんあいの子どもの交流をしました。大きな岩がごろごろしているところに綺麗な水が流れていて、背中に水を掛けられると逃げたくなるほどでした。2cmほどの小魚や手足の生えたオタマジャクシ、沢蟹もいました。おやつに「富士山」と命名したかき氷を食べました。作り方は簡単！2つのカップに氷を山盛りにして合掌。綺麗な富士山のできあがりです。歓声が上がり皆大満足でした。青や緑のシロップを掛けると本当の富士山に見えてきました。

(野田)

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。

ご寄付は下記の口座をお願いします。＊お名前をお入れください＊

埼玉りそな銀行 岡部支店(普) 0058888 70) サアガ ケン リゾ 39044028 外

編集後記

今年の夏は観測史上最高の暑さで、全国の猛暑日（日最高35℃以上）は過去最多の1,500回超えだったそうです。お隣の群馬県伊勢崎市では41.8℃を記録し、国内の観測史上最高気温を更新しましたね。ちなみに気温の35℃以上を「猛暑日」と呼ぶのは2007年に始まった新しい基準。秋の涼しさがいっそう嬉しく感じられます。

(広報タスクチーム一同)